

2013 年度（対象年度：2012）自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 5 学生の受け入れ

・自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:あまり実行していない」「D:実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
503	適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	収容定員に対する在籍学生数比率は適切ですか。	B	B

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

入学定員、収容定員に対する在籍学生数比率は、学部及び研究科の責任のもと管理している。2012 年度における全学部の平均値は、入学定員に対する入学者数の割合は、「1.09」、収容定員に対する在籍者数の割合は「1.13」となっており適正に維持している。

研究科における入学定員に対する入学者数の割合は、修士課程が「0.78」、博士後期課程が「0.54」、法科大学院が「0.64」となっている。また、収容定員に対する在籍学生数の割合は、修士課程が「0.87」、博士後期課程が「0.65」、法科大学院が「0.97」となっており若干の未充足状態である。ただし、一部研究科においては、大幅な未充足状態が続いている。2012 年度においては、未充足状態の改善方策の一つとして、入学者確保の観点から「早期卒業制度」を整備した。また、社会人入学生受け入れ促進の一貫として「長期履修学生制度」や学費・奨学金の在り方について検討を行った。

[改善すべき点の確認] 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

- ・大学院の在籍者比率の適正化に努める。
- ・大学院に進学する学生を確保するため、各研究科において学生募集説明会を頻繁に行う。また、全学的な説明会を実施し、全研究科が同時に広報する場を設けるなどの方策を検討する。
- ・大学院における奨学金の設立や入試制度の改革について検討する。
- ・研究科においては、未充足の状態が継続しているので改善が求められる。【努力課題】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

特になし

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

- ・研究科における未充足状態を改善し、さらなる入学者確保のため、「多様な知識を修得するための教育課程の制度設計」、「学生の研究支援のあり方」、「入学試験制度の見直し」、「学費のあり方」、「社会人を対象とした大学院生確保の方策」等について全学的な視点から検討し、実施可能なものから随時行っていく。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
503	学校法人実態調査表 【様式 1- (1)】 教学企画部作成
503	本学大学院への入学を目的とする「早期卒業制度」の整備とこれに伴う規程の制定について (提案)

・ 評価結果

総評
学部においては、適切な定員を設定し、学生を受け入れ、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していると評価できる。 ただし、研究科においては、「早期卒業制度」を整備し、社会人入学生受け入れ促進の一貫として「長期履修学生制度」や学費・奨学金の在り方について検討を行っている点は評価できるが、一部研究科においては、大幅な未充足状態が続いているので、継続して改善方を検討する必要がある。
伸長すべき点(長所) 《箇条書き》
・学部においては、適切な定員を設定し学生を受け入れ、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している点。
改善すべき点 《箇条書き》 * 各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・一部研究科においては、大幅な未充足状態が続いているので、継続して改善方を検討する必要がある。【努力課題】
【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要